

令和 4 年度 第3回須坂市地域公共交通会議 議事録

開催日時：令和5年1月25日(水)

会 場：シルキーホール 第1ホール

出席者：

【議事概要】

1. 開会
2. 議事
 - (1)協議事項
 - ① 須坂市地域公共交通計画の策定について
 - (2)報告事項
 - ① バスこども無料デーの利用状況について
 - ② 書面協議の結果について
 - ③ すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について
 - ④ バス IC カードくるるの利用状況について
3. その他
4. 閉会

1 開 会

欠席者の報告。

《出席16名(代理出席1名) 欠席9名 》

会議は公開。議事録作成のため、会議内容を録音。

2. 議 事

(1)協議事項

①須坂市地域公共交通計画の策定について

事務局：

- ・昨年末に公共交通事業者とのミーティングを実施した。その場で次年度以降の定期的な意見聴取について合意を得た。
- ・長野電鉄においても次年度から委員として参画することをご了承いただいた。
- ・地域公共交通計画のパブリックコメントについては2月6日(月)の週で開始予定である。募集期間は30日間である。また地域公共交通計画と連携して作成している立地適正

化計画の中間パブリックコメントについても併せて実施予定である。

■地域公共交通計画素案 第 1 章から第 3 章について

会長：

・地域公共交通計画の第 1 章から第 3 章までの内容についてこれから協議を行いたい。
何かご意見はあるか。

委員：

・p16 市民アンケート結果中のイオンモールに行くときの移動手段について、長電バスが選択肢にある。弊社としてはバスの運行について情報を公表はしていないが、その点についてはどのような設問の設定および情報提供したのか。

事務局：

・長電バスがイオンモール内に停車するという情報提供は行っていない。既存のバス路線図を示して、イオンモールの付近をバスが走行しているという旨を伝えている。

会長：

・p16「イオンモールの利用意向」と p.7「将来運転ができなくなったときの不安」のグラフは何が違うのか。

事務局：

・p16 の円グラフについてはイオンモールの利用意向について聞いている。p.7についてはイオンモールに限らず将来的な移動に関する意向について伺っている。

会長：

・p.7の将来運転ができなくなったときの不安に関するグラフでは公共交通の利用を明記せず将来の移動について不安に思っている人たちが 3 割いる。44%の市民が公共交通を利用すると回答しているが、その中にも将来的な移動について不安に思っている人もいるはずである。市民の移動に関する不安を解消していけるような計画にしていきたい。

■地域公共交通計画素案 第4章から第5章について

事務局：

・p.21に公共交通の将来イメージを掲載しているが、あくまで現時点で想定できる施策を図として表記していることをご理解いただきたい。オレンジの網掛けの部分については具体的な取り組みイメージを記載しているが、当該エリアのみでなく他エリアや図上に太い矢印の着色がない部分についても将来的に公共交通を利用していただけよう施策を検討している。

会長：

・p.28 に茨城交通の事例であるが、このバス車両はどの大きさで、普段はどの程度の利用状況か。またコラムのイメージを見る限り、ルート自体を変更する施策なのか

事務局：

・バス車両は現在の市民バスと同等の中型バスである。車両サイズにより細街路の通行等の懸念はあるが、需要の低い昼間の時間だけルートを変更し自宅の近くまで呼び出せるようなシステムである。いわゆる乗合タクシーのようなイメージに近い。

委員：

・pp.22-23 に今後の取り組み施策・事業があるが、IC カードシステムの変更、アクセス乗継の円滑化、IC 周辺のアクセス強化がより具体的な施策のように感じた。IC カードシステムの変更とバスのルート変更はどちらが先か。また大型商業施設のバスの乗り入れについて現状を伺いたい。

事務局：

・IC カードシステムとルート変更の順序について、基本的には IC カードシステムとルート変更は独立した内容である。ただし IC カードシステムの変更により、割引制度が適応できなくなるため、運賃設定については IC カードシステムの変更に合わせて検討すべきであると考えている。

委員：

・大型商業施設へのバスの乗り入れについて、大型商業施設の敷地に乗り入れるようなルートを前向きに検討している。土日ダイヤについては減便している背景があるため、大型商業施設まで直通でいけるようなバスを1時間に1,2本運行できればと内部で検討している。

委員：

・p.26 の 5-2 の(1)について、ルート変更に関する記載があり、より使いやすいバスルートの見直しなど、いろんな手段で使いやすい公共交通にしていく内容が盛り込まれていて良い。ただ、すざか市民バスなどは高齢者の利用が多いように思うが、現実を考えるとやはり息子や娘に送迎を頼ってしまうのではないか。さらなる働きかけとして、例えばよく行くスーパーの特典や割引などを付けたりすると、もっとバスや乗合タクシーを使ってもらえるのではないか。

事務局：

・ご指摘のとおりである。ただし計画に具体的な特典についての記載ができるかという不確定要素が多いため難しい。事務局としてはルート変更だけでなく利用促進の特典も前向きに検討もしている。

委員：

・p.21 の将来イメージを見ていたが、峰の原スキー場まで無料シャトルバスを運行している話を聞いた。将来イメージについて、南側は仙仁温泉で止まっているが、峰の原高原も重要な観光資源であるため、一意見ではあるが情報共有としてこの場でお知らせしたい。

事務局：

・貴重な情報の提供に感謝する。

■地域公共交通計画素案 第5章から第6章について

委員：

・全体的に市民の足として公共交通は必要だが、乗合タクシーについての記述が少ないように感じる。もう少し記載してはいかがか。p.38 の評価指標の設定についてICカードの利用についても乗合タクシーでも利用できるため、市民バスだけでなくタクシーについても触れるようにされたい。

・近年は歩く人も増加しているが、近くにバス停がない方でも徒歩で公共交通を利用してもらおうという、健康増進の観点から「歩いて公共交通を利用」という視点での啓発活動についても検討されたい。

事務局：

・乗合タクシーについてはご指摘の通り記載が少ないため、計画として記述を増やす。
・健康志向の徒歩利用の啓発活動について、市民課でもすでに啓発活動を行っている。公共交通利用のメリットについて健康教室、出前講座を用いて情報発信を行っているため、そのような取り組みは今後も継続して実施する。

委員

・子どもが須坂市内の高校に通学しており、朝は送迎、帰りはすざか市民バスを利用している。バスの発車時刻に間に合わないと次の時間までのギャップがあるためバスを逃した際に徒歩で帰宅するということが多々ある。改善が可能であれば市民バスの増便や高校のカリキュラムに合わせたダイヤの見直しをしていただければと思う。

事務局：

・事務局としても高校生の移動は重要だと考えており、次年度に教育機関へのヒアリングを検討している。また昨年末に実施した交通事業者ヒアリングでは夕刻の低需要の時間帯での高校生向けの帰宅用乗合タクシー等のアイデアも出ているため、事務局としても検討していきたいと考えている。

委員

・涌井委員より利用者を増やす取り組みについて意見があったが、事務局としてのそのような考えがあるのであれば、p.34 の身近に感じる公共交通の中に、不透明ではあるが検討していきたいという事務局の意向を明記しても良いのではないか。

・p.22 の計画全体のデザインは、施策と実施年度が見開きで記載されていてよいと思う。後半の施策内容に該当ページ記載するとより分かりやすい計画になるのではないか。

事務局：

・計画内における特典の記載については検討させていただく。
・より計画が分かりやすくなるよう p.22 について、施策の該当ページ番号を追記する。

会長

・運転免許返納者に IC カードを提供しているが、免許返納者に提供した IC カードの利用率は把握できるのか。

事務局：

・把握できない。IC カードについては記名式と無記名式があるが、大半が無記名式のためその後の動向については把握できない。

・前橋市でマイナンバーと交通系 IC カード連携の実証実験を行っているが、それがうまくいくようであれば、個人の利用状況についても把握できるようになると考えている。

委員

・p.38 の評価指標の公共交通利用者数の中に長野電鉄がある。今までの公共交通会議は市民バスや乗合タクシーがメインであったが、沿線協議会との関わりも含めてこの会議の役割は変わっていくのか。

・長野電鉄が委員として参画するということは鉄道への要望も公共交通会議の中でお話いただけるのではと期待している。

事務局：

・この会議はバスと乗合タクシーを軸として進めているが、公共交通においてはバスと電車のような連携も必要である。連携を一層深めるため指標に長野電鉄の利用車数を定めている。沿線活性化協議会については鉄道メインの会議であり、本会議との調整は図ってはいない。

・前回の事業者ミーティングにおいても長野電鉄からお話をいただいている。そのため本会議の委員に参画していただくことで多様な連携が図れると考えている。

会長：

・地域公共交通計画について賛同いただけるか。

(委員からの異議なし)

・賛成多数のためこの方向性で進めるようにされたい。

事務局：

・承知した。修正した計画は委員の皆様にパブリックコメント以前に送付する。

(2)報告事項

①バスこども無料デーの利用状況について

会長：

・バス無料デーは前回夏休みにやっている。その際も利用者は 20 名程度であったが、同じ人が利用しているのか。長野電鉄と同時にやっているが電鉄の実績も気になる。

事務局

・利用者については紙チケットによるもので、個人を特定できるシステムでないため、同じ人物かは把握できない。

②書面協議の結果について

事務局：地域公共交通確保維持改善事業について全員一致で承認された。

③すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について

④バス IC カードくるるの利用状況について

会長：

・報告事項の③、④について一括して報告を求める。

事務局：

・バス・乗合タクシーの利用状況についてコロナ以前の状況に近づきつつある。

・p.11 についてKURURUの昼割の利用件数について過去最高に近い値で伸びている。ICカードを利用する高齢の利用者が増加していることが推測される。この点については分析していく。乗継割引については明徳団地線が増加している。

委員

・明徳団地線の乗継割利用件数の増加については、乗継割利用者のカウントは乗継前なのか乗継後なのか。また、乗継割のシステム上、純粋な乗継だけでなく 90 分以内に買い物して行き便とは別に系統に乗ったケースも乗継としてカウントされる可能性が考えられる。

事務局

・明徳団地線の乗継割利用件数の増加について、詳細な内容を整理し回答するようにする。

会長

・以上で、協議事項及び報告事項は終了である。

3. その他

会長

- ・全体を通して委員の皆さんからご意見等あるか。

委員

- ・ドライバー不足の課題も記載されているが、長野県としてもこの点について非常に難しい課題と捉えている。須坂市とも連携し今後も取り組んでいきたい。

委員

- ・私は、長電の労働組合所属という立場で、長電バス運転手をしており、須坂屋島線も運行しています。運行していて感じるのは、便数が少ないこともあるが、乗客が少ない。計画の内容は様々な対策を考えられており、素晴らしいと思います。あとは、市民の人たちにも、少しでもバスを使ってもらいたいと思います。

- ・計画の課題にもあるが、人員不足についても、現場ではコロナが落ち着き始め運行数も戻り始めてきたところに職員が辞めていく状況があり、現場としても少しでもドライバーの採用増加の必要性を感じているところ。

委員

- ・昨年末の須坂市とのヒアリングで乗務員不足の課題として挙げさせていただいた。乗務員募集をしても中々問い合わせがない中、ハローワークからインターンシップの開催についてアドバイスを頂戴し、実際に1名の方がインターンシップに参加している。課題解消に向けた一意見として情報共有させていただいた。

4. 閉会

事務局：

- ・以上をもって第3回須坂市地域公共交通会議を閉会する。